氏名	福 本 正 美
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 110 号
学位授与の日付	昭和40年 3 月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)
学位論文題目	**慢性関節リウマチの臨床的研究 特にその活動性の評価について**
論文審査委員	教授 児玉俊夫　教授 砂田輝武　教授 田中早苗

学位論文内容要旨

慢性関節リウマチの全身指数について，児玉ならびに Lansbury のものを比較し，それによって患者の経過について検討した。児玉ならびに Lansbury の成績は大体一致する。児玉のは stage Ⅱ に，Lansbury のは stage Ⅰ にどちらかといえば適している。しかし，あまり差がないならば国際的に通用している Lansbury のものをとるのが妥当であろう。Hollander の圧痛計による関節の圧痛と Lansbury の従来の方法による関節の症状とは，手関節においてはよく一致するが，他の関節ではかならずしも一致しない。しかし，圧痛のある関節では圧痛計は小さな変化をとらえることができ，薬物効果の判定に有用である。服用した総ステロイド量の多いものほど副腎皮質予備能の抑制が強い傾向があり，少量でも長期間使用すると抑制が強くなる。Class Ⅳ の患者についてみると，女性では50才以上に圧倒的に多く Class Ⅳになった年令は更年期以後がもっとも多い。実際に診察し得た患者は 8 例であったが，そのうち 6 例はステロイドを服用しながらも Class Ⅳにすすんでいる。ステロイドの服用も Class Ⅳにすすむ運命にある患者の経過を変えることはできないように思われる。

(昭和40年 9 月発行予定のリウマチ 6 巻 1 号に掲載の予定)

論文審査の結果の要旨

慢性関節リウマチの症状の評価には諸種のものがあるが，いずれも満足し得るものでないことは万人が知っている。現在最も普及している Lansbury の全身指数と，児玉が岡大整形外科内のリウマチクリニックでの研究結果として作ったものをまず福本は比較分析しした。その結果は両者互に大体一致平行するが，どちらかと云えば Lansbury のものは症状の進行の第2期のものに，児玉のものは仝第3期に適している。

つぎに局所の圧痛を数字で現わすのに Hollander 圧痛計が最近考案されたが福本の研究では手関節には用い得るが，他の関節とは臨床症状と必ずしも相関関係は認められなかった。しかし仝一関節，仝一方法で測定したものは細かい変化を数字で出せるので薬剤の治療効果の判定に用い得る。

その他ステロイドを使用した患者の副腎皮質予備能と，機能障害が第4度と最も進行しているものの臨床経過を分析した。

以上の通り本論文は新しい知見に富み，学術上有益であり，著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有すると認める。